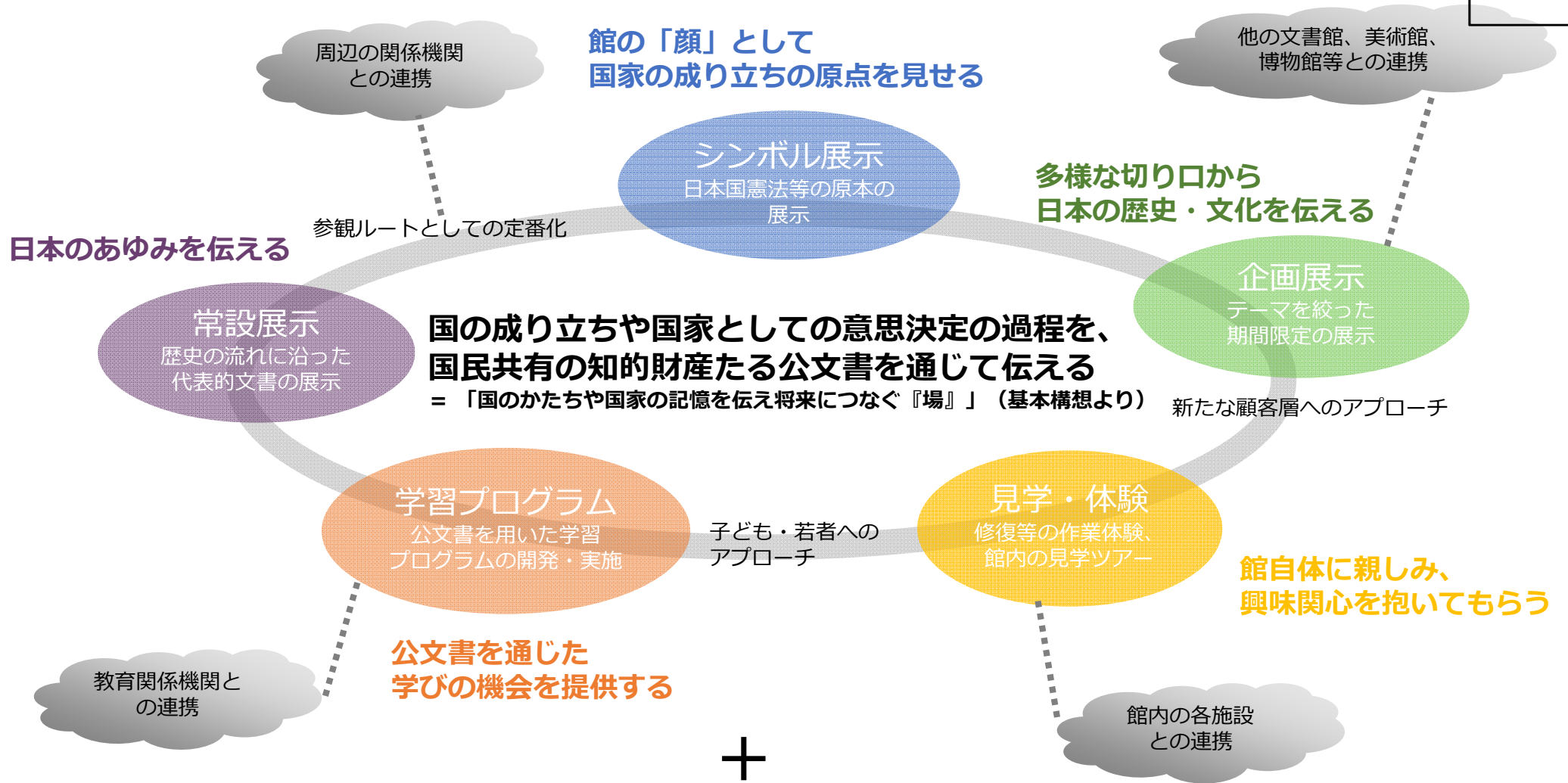


展示・学習、情報交流活動の展開イメージ



積極的かつ戦略的なPR活動、国立公文書館を拠点とした交流の促進

第1回展示・学習等WGにおける主な論点

論点1. 全体コンセプトを踏まえた展示の具体的な展開イメージ

- －施設全体のコンセプトを踏まえ、どのような展示を、それぞれどのような狙いをもって、どのようなターゲット層を想定して展開するか。

論点2. 常設展示と企画展示の重点の置き方

- －常設展示と企画展示のどちらにより重点を置いて活動を展開するか。展示スペースの広さ・配分をどうするか。

論点3. 公文書等をより魅力的に展示するための手法

- －文字情報が中心であるという公文書等の特性を活かしつつ、より来館者の興味・関心を高めるため、どのような展示手法が効果的か。公文書等とそれ以外の資料の比重についてどのように考えるか。

論点4. 全体コンセプトを踏まえた学習活動の具体的な展開イメージ

- －どのような活動を、どのような狙いをもって、どのようなターゲット層を想定して展開するか。

論点5. 見学・体験（バックヤードを見せる活動）の具体的な展開イメージ

- －どのような活動を、どのような狙いをもって、どのようなターゲット層を想定して展開するか。

各活動の展開イメージ（仮案）

	シンボル展示	常設展示	企画展示
概要	論点1 日本の国家としてのあゆみを伝える (基本的に通年同じテーマによる展示)		多様な切り口から日本の歴史・文化を伝える (特定のテーマに沿って一定期間行う展示)
狙い・ターゲット層の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 日本のあゆみを学べる施設としての認知・定着 → 特定の層に絞らず広く万人に開かれた施設を目指す 国会周辺参観ルートとしての定番化 → 国会参観者等の取り込み 		<ul style="list-style-type: none"> リピーターの獲得 → 「友の会」会員などのリピーターの増加 多様な客層へのアプローチ → 新たな客層の取り込み
所要時間	45分程度で一巡できる程度が望ましい		30分～1時間程度で一巡できる程度が望ましい (企画内容に応じて柔軟にスペースの使い方を換えられるような工夫が必要)
主な展示資料	論点2 <ul style="list-style-type: none"> ● 国家の体制を象徴する資料 例) ・日本国憲法	論点3 <ul style="list-style-type: none"> ● 国の成り立ちや近代以降中心の我が国の政治、外交、社会等に関わる主要な事柄に関する資料 ● 国立公文書館・公文書管理について ● 小中学生・生徒の教育に配慮した展示 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各テーマに関連する資料
	【国立公文書館の所蔵資料】	【国立公文書館の所蔵資料中心としつつ、他の機関からの借用資料も補足的に活用】	【国立公文書館の所蔵資料のほか、他の機関からの借用資料も積極的に活用】
展示手法	公文書等を中核に据え、映像やグラフィック等も交えた解説等によりその内容を分かりやすく伝える工夫を凝らす。 さらに、他館からの借用資料も含めた映像資料、実物資料等の展示により、出来事や時代背景をよりリアルに分かりやすく伝える。		

	学習プログラム	見学・体験
概要	<p>公文書を活用した学習プログラムの開発・実施</p> <p>論点4</p>	<p>館内の見学ツアー、作業体験</p> <p>論点5</p>
狙い	<p>次代を担う子ども達に、文書で記録を残すことの意義、文書を通じて歴史を学ぶ楽しさを伝える</p>	<p>公文書及び国立公文書館への理解・関心を高める</p>
主なターゲット層	<p>小学生、中学生、高校生 小中高の教職員（プログラムの開発への協力も含む）</p>	<p>小学生、中学生、高校生 来館者全般（参観ツアーのオプション）</p>
具体的な内容（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公文書を活用した学習プログラム、教材の開発ワークショップ（教職員向け） ・ 公文書を活用した学習の実践（子ども達向け） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修復室、書庫などのバックヤード見学 ・ 修復などの作業体験